

宮城

看板に求められる安全性

宮城県屋外広告美術協同組合 啓発事業委員会副委員長 安達 裕明
(株式会社スリーエイト)



我々が普段仕事で関わる看板はお店の大事な顔の部分ですが、看板の仕上がり以上に重要なのが、最近ニュースなどでもよく耳にするようになった看板の安全性の問題です。

看板は一般的に見栄えを良くするために固定部分などを意匠的に隠している場合があります。見た目では問題がなさそうに見えても、設置から数年経つとどうしても金属は劣化が始まります。その原因としては酸性雨、塩害、熱伸び、錆びなどが挙げられています。なんと、犬のおしっこでも看板支柱が腐食し倒壊した例もあるそうです。知らない間に腐食が進み、部材の一部が脱落するケースがみられ稀に通行人などを巻き込み深刻な事故につながってしまうこともあります。それ以外にも地震や突風などの予期せぬ自然現象により、経年劣化により脆くなった看板が倒壊の危機にあうといったケースも考えられます。そういった事故を未然に防ぐためにも、看板の安全点検は重要な意味を持っています。

弊社でもH29年に「屋外広告物点検技能講習会」を受講しました。看板の点検には、この点検技能講習終了者又は、屋外広告士資格が不可欠です。ぱっと見問題なさそうだから大丈夫だろうと過信せず、定期的な安全点検を実施することが大事です。錆が出てきた、看板表面の膨らみやゆがみが見られるなど目視でわかる場合もありますが、一番大事なのは目視だけではわかりにくい壁や内部の取付部分などです。構造上重要な看板の支柱継ぎ目などは専門点検技能者による点検が必要不可欠です。

条例改正により看板の安全管理は「所有者」にも義務付けられています。しかし、屋上看板や突出し看板、ポールサインなどの高所点検作業には通常、足場を組立ったり高所作業車などの特殊車両を使用し作業します。場所によっては作業スペースが狭くて足場が組めない所や特殊車両の使用料金発生、道路使用・占用許可証などの事前手続きが必要になる場合もあります。オーナー様の負担が大きいかと安全点検すら足踏み状態になってしまうのでは問題です。

そんな高所の看板点検はドローンが強い味方です。弊社ではドローンを使用することにより、作業車では入り込めない高い場所などドローンの特徴を活かした丁寧な目視点検を行い、初見の現場調査を短時間で行うことが可能になりました。細部まで鮮明な映像で対象物を撮影し劣化の状況を判断することで、経過観察でも良いのか、部分修繕・撤去が必要なのかどうかをモニターでその場ですぐに確認できるのがドローンの強みでもあります。



地元仙台では昨年、国分町の虎屋横丁のシンボルであるアーチ看板が老朽化のため撤去されることが決定しました。戦後間もなく立てられ70年位は経過しているとのことですが、もともと丈夫に作られた看板だったのでしよう。地元の人から愛される看板を、長く安全に残していきたいものですね。



東北地区連兼務宮城・事務局便り

平成最後のお正月。どんなお正月でしたでしょうか？初日の出に家族の健康を合掌しながら「ああ〜平成の時代が戦争がなく平和に暮らせて本当に良かった」なんてか、とても有り難く神々しく感じた朝日でした。このような穏やかな気持ちになれるのも健康な躰があつてこそですね。

「人生いきいき笑いは病を防ぐ特效薬」著書の松本医師が、おっしゃるには、ガン細胞をやっつけてくれるNK細胞は笑いで活性化します。大阪の笑いの殿堂なんばかげっ細胞と覚えておき、とにかく笑いましょ。

笑いは即効性があり、嘘笑いでもOK。脳はだまされる……。やっぱ「笑う門には福来る」ですね。今年も大いに笑って元気に乗り切っていきたいよ！ 本年もどうぞよろしくお願いたします。 秋葉 久美

今年5月1日からの新元号に興味津々。そして慣れ親しんだ「平成」ともつずくお別れです。

3月の「平成」最後の東北大会は山形県開催です。福島県から始まり、宮城県、岩手県、青森県、秋田県、山形県、そして来年の福島県での東北大会で、前事務局局長から引き継いで丁度巡ります。

この間、日広連の全国大会が福島県で行われる等、二つの行事を重ねていく度に、大戸会長を中心にした東北6県の理事長間の和やかさと風通しの良さが傍にいて心地よく感じられるようになりました。信頼関係が増し、さらに意思の疎通も図られたことで東北地区連の二連の行事や新規事業への取り組みにも好影響がもたらされてきています。

そのような中、この2月には各単組での総会で役員改選が行われ、新理事長の誕生の可能性も数県で高まっております。東北6県の理事長メンバーにも若干変化があるかもしれません。それでも、現6県理事長の関係性をそのままに、さらに深めて進めることを期待し、今まで以上に私も努めていこうと思います。

そして、「平成」で出会った沢山のお世話になったあの人、この人…の笑顔やその時の思いを忘れることなく、感謝しながら日々過ごしていきたいなど、改めて思うこの頃です。 高橋 ちよ子